

お医者さんに聞く

高齢者に優しい

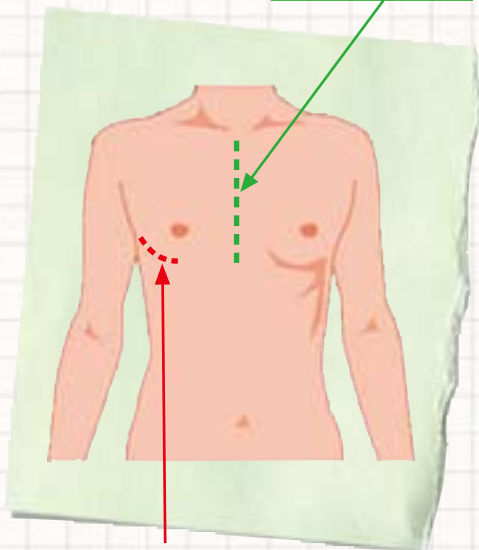
心臓の手術④

MミIックCス MエムVブイPピー

↳ ストレスの少ない自己弁修復術

手術の世界では目的を達成するための通り道をアプローチと呼びます。MICSとは Minimally Invasive Cardiac Surgery 低侵襲しんじょうの心臓手術と言う意味です。侵襲とは手術による体の負担ということで、その負担が最も軽いと謳っているのがMICSです。周辺技術の進歩とともにMICSはまた様変わりすることが予想されますが、現時点でのMICSはアプローチを指します。現在、通常の心臓手術は胸の真ん中の板状の骨（胸骨）を上から下まで30〜40cm切って行います。MICSでは骨を切らずに肋骨の間を5〜8cm横に開いて行います。つまり「骨を切らずに小さな傷」でありながら、「骨を切って大きな傷」でやる手術と同じ事をやるのがMICSです。骨を切らない

通常の心臓手術



MICS (低侵襲の心臓手術)

分出血量が少なく、術後、切った骨にバイ菌がついて感染に悩まされるといふこともありません。傷が小さいので痛みが少なく、術後の回復も早く美容的にも優れています。しかし、心臓全体を見渡せない、臨機応変の対応力に乏しい、複合手術には適さないなどのデメリットもあります。ですから、今のところMICSでできる疾患は限られており、左の心臓の入り口の弁で心臓の裏の方に



心臓血管外科部長
関井 浩義 医師

今年度の抱負
100%安全な手術を
目指す!



毎日畑仕事に精を出していた日向志け井さん。年末あたりから胸がだんだん苦しくなってきた受診したところ、僧帽弁がゆるみ逆流していることが判明。自分の弁を修復して自己弁形成手術を受けました。



日向 志け井さん

元気が自慢だったので、まさか心臓が悪くなるとは思いませんでした。初めての手術でしたので不安でしたが、大好きな藤あや子さんや天童よしみさんの曲を毎日歌って乗り越えました。

先生からは、小さい傷と少ないストレスで行う手術であることは説明を受けていましたので最初は安心していました。しかし年齢のこともあり、術後の経過を心配する事もありましたが、手術後2週間で退院できるほど良くしていただき、大変感謝しています。母親には、これからは好きなことをたくさんしてもらって、元気に長生きして欲しいです。



息子の
日向 一彌さん

「退院したら大好きなカラオケを堪能したいです!」

日向 志け井さん

89歳

庄内町 (写真中央)

Interview

位置している僧帽弁疾患に対するアプローチとして用いるのが最適です。現在、僧帽弁疾患ではゆるんで起こる逆流症が圧倒的に多くなっています。最近、僧帽弁逆流症に対しては人工弁置換ではなく、自分の弁を修理して使う自己弁修復術(MVP)が著しく発達しました。ですから、MICS MVPという組み合わせは現時点でのベストマッチと考え



ることができません。ですが、未だ普及率の低いのが現状です。日向志け井さんは、昨年末、心不全で救急入院されましたが重症の僧帽弁逆流が原因でした。ご高齢ではありませんが修復が必要な状況でしたのでMICS MVPを行わせていただき、順調に経過退院されました。このように高齢者の多い庄内地方ではもっと普及すべき手術と考えています。